

- 2022 大学合格者数
- 進路部的に6月とは
- 今年度の進路指導部／赤本ルール

【2022 大学合格者数（現役・既卒生）】

主な国公立大学等			主な私立大学(延べ)		
	現役	既卒		現役	既卒
北海道大	6	0	青山学院大	46	8
旭川医大	0	1	学習院大	17	3
東北大	2	1	北里大	3	0
茨城大	2	1	慶應義塾大	28	9
筑波大	4	0	國學院大	11	0
千葉大	7	2	駒澤大	4	2
埼玉大	9	0	芝浦工大	27	12
お茶の水女子大	2	1	上智大	25	4
電気通信大	0	1	成蹊大	21	2
東京大	2	1	成城大	19	1
東京医科歯科大	2	0	専修大	20	1
東京外語大	3	1	中央大	69	21
東京海洋大	2	0	津田塾大	12	4
東京学芸大	4	0	東京女子大	19	2
東京工業大	4	0	東京農業大	34	0
東京農工大	4	1	東京女子医大	3	0
一橋大	7	1	東京理科大	41	8
東京都立大	9	0	東洋大	44	10
横浜国立大	7	0	日本大	46	10
横浜市立大	1	0	日本女子大	16	0
信州大	1	0	法政大	74	21
静岡大	1	0	東京都市大	5	1
新潟大	1	0	武蔵大	10	1
金沢大	1	0	明治大	101	22
名古屋市立大	0	1	明治学院大	25	1
京都大	1	0	立教大	57	8
岡山大	1	0	早稲田大	73	7
その他	11	3	その他	180	13
計	94	15	計	1030	171
	109			1201	

この春の大学合格者数です。国公立大学では、東大・京大・一橋大・東工大といったいわゆる難関大の合格者数が増加しました。私大でも、早稲田や慶応の現役合格者が確実に増加しています。

○ 進路部的に6月とは

各学年、新しい環境の中で新年度が始まって約2ヶ月。3年生は修学旅行を、そして全校生徒が揃っての運動会を経て、学習面では中間考査の結果が手元に戻ってきていることでしょうか。特に1年生にとっては高校生活最初の定期考査。さて、学習の成果はどうでしたか。

〈中間考査〉

思い通りの成果を得られた人は、慢心することなく日々の学習習慣をよりよい形で継続していきましょう。残念な結果については、その原因を自身を客観的に捉え直して探ってみることが大切です。失敗の原因はどこにあるのか、何を改めればよい方向に進んでいけるのか、授業前の準備は、授業中は、授業後の復習や演習は…。1ヶ月後には期末考査があります。中間考査の振り返りを活かして日々の生活を整え、期末考査での成果につなげていきましょう。

〈夏期講習〉

3年生の夏期講習は6月1日が申し込み〆切でした。どの講座を受講するか、全部で何講座くらい申し込むか、いろいろと悩んだのではないかと思います。こういった「私はどうすればいい?」といった類いの悩みは、とても大切です。それは言い換えれば、私に必要なものや足りないものについて考える、すなわち「私を知る」ことにつながるからです。「彼を知り己を知れば百戦殆からず」(『孫子』)。進学を考える上では、大学や過去問の調査研究も必要ですが、「私を知る」ことも不可欠です。



〈教育実習生〉

今、君たちの先輩方が母校である本校において教育実習に取り組んでいることをご存じですね。日頃顔を合わせている先生方よりも生徒諸君に極めて近い年齢の教育実習生ですから、気楽にいろいろな相談ができるのではないのでしょうか。高校生活のこと、受験のこと、大学生活のこと…。君たちが今まさに歩んでいるその同じ道を進んできた先輩たちです。ホームルームや授業等で接点がなくても、君たち全員が教育実習生とこの新宿高校で繋がっています。不要な遠慮などせずに、先輩達の経験と知恵に触れる機会を活用しましょう。

○ 今年度の進路指導部

進路指導室は3階にあります。進路に関わる相談など、用事があるときは訪ねてください。進路の相談は3年生に限ったものではありません。1・2年生もお気軽にどうぞ。

また、進路指導室の隣が「進路指導資料室」になっています。ここには廊下に置ききれなかった赤本や、各大学のパンフレットなどの資料が置いてあります。

進路室前の廊下には、オープンキャンパスや職業体験・大学体験などの案内が掲示されています。自分に必要な情報を積極的に入手していきましょう。好奇心のアンテナを常に働かせてください。

先輩からの言葉

みちのくに生きる

東北電力株式会社 ガス事業部 副部長

38回生 小田島 肇

皆さん、ご入学、ご進級、誠におめでとうございます！新しい春を迎え、希望に胸を膨らませてらっしゃることと思います。

さて、私こと、昭和61年春に母校を巣立ってから36年余。今ではすっかり“東北人”となり、東北の地を拠点に活動しているオジサンですが、その原点を遡りますと、やはり、母校新宿高校に辿り着きます。

そこで、誠に恥ずかしながら、これまでの来し方を振り返りつつ、皆さんへ、みちのくから励ましのメッセージをお送りしたいとの思いから、このたび、筆をとらせていただいた次第です。

進路部 専任	安藤 (主任・物理)	飯島 (公民)
	加藤 (数学)	笠原 (英語)
	竹内 (物理)	渡邊 (生物)
	寺島 (数学)	細谷 (国語)
1 学年	川口 (地歴)	新妻 (英語)
2 学年	川原井 (化学)	宮澤 (地歴)
3 学年	浜中 (英語)	鈴木(久) (英語)

○ 赤本ルール

進路室前の廊下と、隣の進路指導資料室に赤本が置いてあります。赤本とは大学の過去の入試問題を大学ごとに一冊の本にしたものです。

使い方 今の時期では、それぞれの大学の出題傾向や難易度をチェックするのに使います。時間を計ってやってみても、今はまだ合格点には届かないかもしれませんが、傾向を知り、対策を講じるために使ってください。入試直前期には文字通り、自分の力試しに活用します。

ルール 廊下に置いてある貸出簿に必要事項を記入すれば借りられます。冊数や期間は特に制限していませんが、みんなが使うものですから常識の範囲内でお願いします。12月になると冊数、貸出期間を制限します。あらためて連絡します。

ヘンな卒業生もいたものだと思いますが、どうぞ大きな心で、最後までお読みいただけましたら幸いです。

★母校在校時代…ヘタの横好きが高じて軟式野球部に所属。同期・後輩に優れたプレイヤーが多数存在していたこともあり、3年間ずっとベンチ、すなわち補欠でした。それでも毎日練習に通い続けたためでしょうか。3年生になると、監督が温情でひとケタの背番号を下さり、“背番号1を着けた控え投手”として、ブルペンに君臨し続けました（当時、母親は、試合なのにいつもユニフォームがキレイなまま帰ってくる息子をとても不思議に思っていたようです…）。

今にして思えば、この落ちこぼれに対し、周りのメンバーの方がかえって気を遣ってくれていたようで、感謝の念に堪えません。また、当時の軟野は文武両道の雰囲気（!?）、メンバーに成績優秀者も多く、大変励みになったことを憶えています。

★東北への憧れ…一方、小学校に入り程なくの頃から、なぜか、古代から近世に至る“みちのくの歴史”にのめり込み、年が経つごと、その度合いは増していました。こうなると少年の一途さも手伝って、書物・テレビドラマ・マンガや家族旅行に至るまで、何でも東北一色。甲子園も東京代表よりも東北勢を熱烈応援する始末。また、中学時代の進路指導面談の際には、志望校を訊かれ、『東北大学法学部です!』とマジメな顔で答え、担任の先生に困った目で見られたものでした。高校に入る頃には、その気持ちはもはや確固たるものとなっており、生活のすべては“白河越え”のため、と言っていいほどにまで昂まっています。

このように、親も半ば呆れ気味のヤバイ生徒でしたが、担任の因藤龍彦先生だけは、いつもおおらかな笑顔でこの若輩者の話を聞いて下さり、励ましのお言葉をかけて下さいました。

★念願叶って東北人へ…その励ましの賜物で、長年来の志望校に入学。仙台での生活がスタートしました。もはや、誰も止める人はいないこともあり、糸の切れた凧よろしく、青森から福島に至る東北の美しい山河を駆け巡り、様々なお仕事の方の生活を見聞し、沢山の方々から教えを頂戴しました。こうして、専攻の法律はどこへやら、“東北学”を履修する日々が4年続きました。当然のごとく、成績の方は落第線上を彷徨い続けており、大学のクラス担任の直江真一先生（ナント！新宿高校卒（22回））には大変なご心配をおかけしていたこと、この場をお借りして深くお詫び申し上げます。

★東北電力へ入社…各地で一宿一飯のお世話になった恩義もあり、いつかこの地域の方々のためにご恩返ししたいとの想いを、不良学生ながらも自然と抱くようになります。その意味で、東北・新潟の地に深く根を下ろし、1951年の創立以来、「地域との共栄」を経営理念とする東北電力株式会社を志願・入社したことは、必然のストーリーでした。

初任地は青森。高圧送電線の鉄塔敷地を購入させていただき用地交渉担当として、津軽地域を駆け回りました。そのときお世話になった地主さんとは長いお付き合いが続いており、今も青森は第二のふるさとです。

その後、仙台の本店に異動。法務、人事、東京の電気事業連合会への出向、ガス事業など、様々な業務経験を積み重ねた後、40歳になり、電気を発電するおおもとなる燃料の調達・受入れを行う部所、燃料部へと異動となりました。そのときは、2011年3月に東日本大震災発生を迎えることになるとは夢にも思っておりませんでした。

★東日本大震災の経験—この日のために生きてきた、との想い—…日本の観測史上最大となるマグニチュード9.0の大地震と、高さ10メートルを超える巨大津波は、多くの尊い命とそこに住んでいた人人の「当たり前の生活」を一瞬で奪い去りました。目を疑うような光景が沿岸部一面に広がるなか、東北電力グループは『東北の復興は電気から』との想いで一丸となって全力で復旧作業にあたり、そこに住んでいた方の「当たり前の生活」を一刻も早く取り戻すべく、早期復旧・停電の解消に努めました。私も、発災間もなく、宮城県石巻営業所への応援部隊の一員として派遣され、車両を宿替わりに日々活動に当たりました。

一方、太平洋側の火力発電所の多くが被災・停止したことから、とにかく電気が足りない。発電所の復旧が至上命題となりました。燃料部員である私は、福島県南相馬市にある原町火力発電所の復旧チー

ムのメンバーに命ぜられました。原町火力は出力100万kw×2基という当社最大級の火力発電所ですが、発災後、初めて現場に立ち入ったときは言葉を失いました。そこには、18メートルの津波が発電所を直撃した壊滅的な被害の有り様が眼前にありました。港で船から燃料を受け入れる揚炭機やタンク類はひしゃげ、タービン本館建屋には壁を突き破って瓦礫や車が流れ込むなど、映画の映像で見る“爆撃直後”の模様さながらでした。真にショックを受けたとき、人は言葉が出なくなる、ということをも身をもって体験いたしました。

けれども、ここで諦める訳にはいきません。そこから、瓦礫を撤去しながらの発電所1・2号機の同時復旧を目指した、2年にわたる大作戦が展開されることとなります。発電所の港には、発災当時、石炭を陸揚げしていた石炭輸送船が座礁したまま横たわっており、このままでは復旧の妨げになることから、燃料部員である私は、この座礁船（戦艦大和よりも大きい！）の撤去オペレーションに参画いたしました。サルベージ会社の方との連携など、すべてが初めての経験の連続であり、また、復旧作戦の期間中は、ろくな休日はなかったように思いますが、東北愛に燃える身として、『オレはこの日のために東北に来たのだ！オレが今やらなくて、いつやるんだ！』とアドレナリンが出まくっていたのでしよう。風邪一つひくことなく元気に毎日、南相馬市へと車を走らせました。

この原町火力発電所の復旧作戦には、全国から設備メーカー・協力会社など約680社、協力者延べ120万人以上の方々に参画いただくとともに、地元の方々からも絶大な支援をいただいた結果、当初の目標であった3年の工期を大幅に短縮し、約2年で運転再開に漕ぎ着けることができませんでした。感謝の念に堪えません。運転再開の日には、私も周囲の誰かれともなく抱き合い、涙を流しました。

震災後、数年間は燃料部員として燃料の安定調達等の業務に携わりましたが、震災で傷ついた各地の状況を見るにつけ、『復興の現場に直接飛び込んで汗をかきたい！』との想いが堪えきれなくなり、東北6県と新潟県をエリアとする経済団体、東北経済連合会への出向を熱烈に希望するに至りました。結局、会社も最後には折れてくれ、晴れて出向。4年の間、東北・新潟の復興に向けた多くのプロジェクトに携わらせていただきました。現在は東北電力に戻り、（電力社員ながらも）ガス事業部に所属し活動しています。

★半生を振り返って…五十有余年の半生を、今になって振り返ってみますと、かなりヤバイ場面にも何度も遭遇し、心が折れそうになった（実際に折れたことも）幾度となくありました。それでも再び前を向いて歩むことが出来たのは、なぜだったのでしょうか。それは『自分で選んだ途』だったから、そしてその想いを支えて下さった方々がいたから…思っています。

皆さんは、今、青春の門のスタートに立っています。どうぞ、ご自身の可能性に自分で枠をはめてしまうことなく、アツい心と柔軟な発想をもって、沢山の先生・先輩・友達・後輩と大いに語り、そして実際に現場に出向き聞きして、ご自身の未来を積極的に拓いていただきたいと思います。ご自分で選んだ途ならば、決して後悔はしないことでしょうか。そして、真剣に考えることで、これまで見えなかったことが見えたり、支えて下さっている方々の想いにも気づくことと思います。

これからの残りの人生、私は、微力ながら東北へのご恩返しを途を歩み続けたいと思います。

★来たれ！杜の都へ…以上、ヘンなオジサンのお話に最後までお付き合いいただき、誠にありがとうございました。最後に、私が長年幹事を務めている「宮城朝陽会」を紹介させていただきます。当会は、宮城県内に在住する府立六中・都立新宿高校出身者の集いであり、実業界をすでに卒業されたOBのほか、現役社会人や学生からも広く参加を募り、活動しています。年代を問わない交流とアットホームな雰囲気が創立以来のDNAとして引き継がれています。

杜の都仙台は、多数の大学を擁する学都でもあります。青春時代を緑多き、この東北の地で、存分に謳歌いただくのもお勧めです。我々宮城朝陽会としても皆さんを大いに歓迎し、心から応援させていただきます。お会いできるのを心待ちにしております！

（同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。）